

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム敬寿園
（ユニット名）	ほがらか
所在地 （県・市町村名）	山形県山形市
記入者名 （管理者）	篠崎 光浩(大類節子)
記入日	平成 19年 6月 18日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を玄関前に掲示している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1回のミーティングで、理念に基づいたケアを目指し、意見交換し、意識、ケアの方向性の統一を図っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時にも家族に説明しており、日常的にドライブや買い物に出かけたり、地域の催し物へ参加している事を家族に説明し理解してもらっている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地条件により、気軽に立ち寄れる場所ではないが、園の夏祭りやバザーに参加して頂けるようお願いしている。また、地区の文化祭に参加したり、地元中学生のボランティアの受け入れで交流を促している。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域における盆踊り大会や文化祭への参加や、子供みこし又、園で行われる夏祭りへの参加の呼びかけなど、地域の人々と交流が行われる様、取り組んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人として、地域包括支援センターがあり、そこが窓口となり取り組んでいる為、グループホームとしては行っていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価後、一定期間を終え評価、感想について話し合い、職員間で改善しなければならない点、また、今後どのように取り組んでいかなければならないかを話し合い、統一意識を持ちながら、具体的な方向性について考え、取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3回行ったが、1回目は自己評価、外部評価の報告、2回目は運動会、芋煮会への参加、3回目は家族会へ参加して頂いた。入居者や家族と関わり、触れ合うことで、直に見ることや聞くことができ、グループホームを理解していただけたと思う。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活福祉課の職員の方が、入居時に来園する機会があったが、現在は無い。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者もあり管理者、職員共に概要を理解している。制度を必要としている場合は家族、関係者との情報交換も行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が行われないよう日々のケアにおいて声掛け、身心共に虐待がおこらないよう職員同士が互いに注意できる環境を作っている。また、虐待についての研修に参加し参加できなかった職員も報告書を通して学んでいる。特に口調については意識するレベルを上げていき如何なるものも防げるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時共に十分に話し合いながら、疑問点などにも十分理解、納得していただけるよう努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設けてあり、詳細を玄関口に掲示しており、入居者、家族に説明している。運営推進委員の方と入居者の方が触れ合う機会を設けている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来園の際は、ケース記録を提示しながら近況をお伝えし体調を崩した際や、通院に行った際には電話を行い結果等をお伝えしている。金銭については、小遣い出納帳を利用し理解も得られている。定期的に瓦版の発行もしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会の際、家族からの意見、不満、苦情を聞く機会を設けており、また外部者へ意見・不満・苦情等を話せるよう玄関先の目立つ位置へ連絡先を掲示している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者はよろず箱の設置や、朝礼の際意見を聞く機会を作り、管理者は日常的・定期的に意見や提案を行う機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者・家族からの要望はきかれていないが行事等で職員が必要な場合は増員し対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職時には、送別会を開き入居者へ理解されるよう機会を設け新職員に対しては馴染みの関係が進むようケアを行う上での個々に合わせた注意等を職員間で話し合っており業務の引継ぎをは上手く行えている。新職員の加入により現職員の意識を高める事にもつながっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会が設けてあり、交換研修においては経験年数に応じ参加を決定している又、全体朝礼で研修報告を行い報告書をコピーし閲覧している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われるスタッフ研修や相互評価などで他グループホームとの話し合いなどを行う機会が設けられておりサービスの質の向上に取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	よろず箱の設置や、全体朝礼時に意見を聞く機会を作り、泊りがけの新年会や歓送迎会などストレスのはけ口を作っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回、事業所内で日頃の取り組みに対する自己評価を実施している。運営者は、それに目を通すと共に日頃の努力や実績を把握しており、実績を評価し、その上で、職員は向上心を持ち、仕事をする事ができている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前においては、管理者が相談に応じ、事前面接では、職員も交え本人の話を傾聴し、不安や困っている事などを聴く機会を設けている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前においては、管理者が相談に応じ、事前面接では、職員も交え家族の話を傾聴し、不安や困っている事などを聴く機会を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が本人、家族の話を聞き、必要に応じたサービス利用の調整を行っている。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の会話の中で、以前していた仕事や昔のならわしについて伝えて頂いている。言葉では言い表せない場合でも、食事作りや年中行事、畑作り、掃除等の際、実際に道具そのものに触れる事で本人の出来ることを引き出し、教えていただいたりする機会を作っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	花見、芋煮会、運動会、クリスマス忘年会と、行事への参加を促しており、一緒にケアする形をとっている。積極的に参加して下さる家族も多く、また、面会時に本人・職員を交えて会話することで、喜怒哀楽を共にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係を理解した上で、本人のADL、認知度のレベルに応じ個別的に家族と一緒に過ごす機会を設けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでに付き合いのあった友人、知人との面会・外出等の機会があれば、その交友関係が続くよう支援し、馴染みの場所(理髪店)がある際には、本人の希望を聞き、対応している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の人間関係を把握し、普段からトラブルが起きる前に回避している。他入居者への面倒見の良い入居者もあり、助け合いが見られる場合は安全面を考慮した上で見守るよう心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、必要であれば管理者が相談支援に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本意になるよう職員全体として心掛けており、自由献立・外食先・出前メニュー・その日の服装・外出先・趣味(詩吟)・日課(肌の手入れ)など本人の希望にあわせて対応している。また、コミュニケーションがとりづらい入居者には、普段の表情や家族面会時などに以前の様子を聞きケアに反映させている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、生活歴や認知症になる頃から入居までの経緯や、以前の本人の趣味・嗜好などの把握に努めている。また、面会時にも情報収集を行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の体力や体調、心の状態を把握し役割活動や一日の過ごし方等を考慮している。また、新しいできる力・わかる力等の発見があった際には業務日誌や写真等を利用し、職員全体として統一した意識が持てるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を利用し、本人・家族からの情報収集を行い介護計画の立案をする上でも、本人・家族の意向を反映させ、職員全員でミーティング時に意見を出し合い介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に一度のミーティング時に介護計画の見直しを行っている。また、入居者に大きな変化があった場合はその都度見直しをする。出来た介護計画は家族に説明しコピーをお渡ししている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌からケース記録に転記する際は、日中帯を黒、夜間帯を赤とわかりやすく記入し、場合に応じてケアプランチェック表を利用し、介護計画の見直しに反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共施設などの協力を得ながら支援している	小・中・高等学校よりボランティアが定期的にあり入居者と触れ合う機会が取られている。また、消防署が年2回来園し防災訓練を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	高額介護サービス費の支給手続きの支援を行っていたが、途中より自動的に振り込まれる様になった為、手続きの必要が無くなった。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度の利用時、相談したことがある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前より、かかりつけ医であった病院等での通院を行っている。家族より協力病院での受診を希望された場合は、本人にも相談し、納得した上で紹介状を書いてもらい転院している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に専門医がある。又地域に脳神経外科クリニックがあり、気軽に相談できる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者の日常的な状態を把握している看護師がおり、敷地内に駆けつけられる看護師が7名いる。通院時や緊急時の相談等の支援が行われている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、入居者を交え見舞いに行った際や付き添い家族等から医師や看護師との情報交換、また、受け入れ可能(医療的な処置が通院で可能な状態)であれば早期に退院できるよう支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期については家族に説明を行い、終末期になった場合には医師・家族との相談のもと往診などに切り替え方針を変更している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者の日々の状態を職員が把握しており、重度化や終末期になった際には、家族・Dr.・看護師と相談のもとすぐに対応できる体制が整えてある。以前に看取ったことがあり、他入居者、家族、職員と共に最後を迎えることができた。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームより他の施設等へ移る場合は、近況やセンター方式等、なるべく多くの情報を、家族の了解のもと、情報を提供し、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	マンネリ化やなれ合いを避けるため、ミーティング時など、定期的に話し合い、心掛ける機会を持つ。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		化粧等が好きな入居者に関しては、家族より化粧道具等を持ってきていただき、本人の希望や家族より好みの色などを聞き、本人に合ったおしゃれを支援している。理容は出張散髪を利用している方が多いがその際は、髪型を本人に決めていただいている。理髪店での散髪を希望する場合は、予約をとり支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		食事準備から後片付け、入居者の方が力を発揮できる様に、それぞれに合わせた支援を行い、食べることの楽しみや意欲につなげている。又食事中は、テレビを消し食席も人間関係に考慮している、
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		本人が好むお菓子の提供や、体調を考慮した上で、行事の際お酒の好きな入居者に対しては、お酒を提供している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、職員が排泄パターンを把握し、出来る限り紙パンツ、オムツ等を使用しないよう、支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全員就寝前にゆったりと入浴しており、個人個人に合わせ、入浴時間や、お湯の温度を調節している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の活動量や身心状況に合わせて休息をとったり、昼夜逆転しないよう、日中帯は活動的に過ごすよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の得意な事、苦手な事を、生活歴や家族からの情報を元に、職員が理解しており、本人が楽しんだり、達成感、満足感が得られる様に支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持していたい方については、家族との相談の元、本人管理を勧めており、管理が難しい方に関しては、職員側で管理をしているが、買い物の際などには本人の力量に合わせて支払い時の援助を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別に合わせた外出(買い物等)や、天候の良い日などに、ドライブや外での食事など、ホーム内だけの生活にならない様支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族等の協力を得ながら、家族と一緒に食事をとる機会や出かける機会を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	小包や手紙が届いた際には、返信の手紙や電話を行い、外部との交流を個々の力量に合わせて支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間を定めておらず、いつでも気軽に訪問しやすい様努めている、面会に来られた際には、一緒に過ごせる場所を確保し、入居者、訪問者にお茶を提供しながら最近の出来事がわかる様にアルバムをお見せしている。その際職員は、一緒に過ごす時間を大切にいただけるよう、場合に応じた支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、職員は身体拘束について理解しており、入居者の人権を剥奪する様なケアは行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は、玄関、職員連絡通路共に施錠せず、自由に出入りできるようにし、安全の為、ドアベルやセンサーをつけている。又最近物騒な事件が多い為、19:30～6:30は施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は本人のプライバシーを配慮しながら常に見守りを行っている。又日中帯、夜間帯の様子をしっかり申し送りを行っている。夜間の様子がわかりにくい居室等には、のれんに鈴をつける等の工夫をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品はあるべき場所に保管しており、入居者が使用する際は見守りを行い、使い終えた際は職員が確認している。本人の力量に応じて自己管理が出来るよう、支援している。(目薬を1本ずつ渡し、チェックする等)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、状況報告書を利用し、再発防止に努め、職員全員が把握できるようにし閲覧している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	心肺蘇生法、AED講習会等、事故発生時に備えた訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を行っている。地域消防団に協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会時など、ケース記録を見ていただき、グループホームでの日常生活を理解した上で、リスクに対する話し合いを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段と変わった状態があれば、業務日誌に記入し、看護師、家族との相談のもと、速やかに対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に服薬の内容証明をファイルしており、服薬の変更、Drからの指示は通院記録に記入している。又身体に変化があった場合は、記録、報告をしっかりと行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者の排泄パターンを理解し、バランスの良い食事の提供、水分補給やそれぞれに合わせた適度な運動をして頂いている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きを行っており、義歯の方に関しては、夜間洗浄剤につけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1600kclに合わせており、食事チェック表を利用し入居者の食事量を職員が把握しており、糖尿病の入居者に関しては、Drの指示のもと、本人と相談しながら量を取り決めている。又水分摂取量が少ない入居者に関してはチェック表を利用し、声掛け、介助等を行い水分補給に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者、職員共にインフルエンザ予防接種を受け、ノロウィルス対策として、ペーパータオルをしようしている。又、感染症の予防マニュアルも作成されており、流行時には対応策の資料が作成され職員は必ず目を通してしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日厨房より新鮮な食材が届いており、要冷蔵の食材に関しては必ず冷蔵庫に保管し、使用した調理器具はしっかりと職員が洗い、まな板は使用後乾燥させている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、門には手作りの表札、看板を設置し、門から玄関まではプランターで花を飾っている。又玄関内には季節ごとの写真を飾り訪ねやすい雰囲気を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間には、写真たてやコルクボードを使用し四季が感じられるように、季節ごとの写真や花を飾り、テレビの音は一定に保っている。食堂の天窓には直射日光を避けるため、すだれを設置し居心地の良い空間作りに努めている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、和室、食堂と入居者が好きな場所で過ごせる共用スペースがあり、ゆったりと過ごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時使い慣れた家具の持ち込みを勧めており、家族の希望で、新しい家具を持ち込む方もいるが、自分で作成した手芸品などがある方は、居室に飾り居心地の良い空間となっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の掃除の際や、調理時、天候に応じて換気を行っており、室温にも配慮している。又、トイレは常に換気扇を回し、消臭剤、芳香剤を使用し、気になる臭いがないようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、玄関に手すりが設置されており、体の小さい入居者は食堂椅子に座布団や踏み台を利用し、体の傾く入居者には、クッションを利用するなどの工夫を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者一人一人の認識力を職員が理解し混乱や失敗が起きないように努めている。また現在建物内に混乱や失敗を招くような箇所は無い。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先には長いすを設置し、グループホーム周辺にはいつでも日光浴が出来るよう椅子が準備されてある。又和室より見やすいところに畑があり、作物の成長がいつでもみられる様になっている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族とのふれあいが保てるよう、花見、夏祭り、大運動会、芋煮会、クリスマス忘年会と四季の行事を家族が参加しても楽しめるよう考案し、多くの家族の方から参加していただいている。グループホーム自体自然に囲まれた環境にあり、四季が感じられるよう、春は花見に加え夜桜見学、夏は花や野菜の苗木の植え替えを入居者と一緒に行い、秋は栗拾いや胡桃拾い、冬は節分、団子木作りなど、活動的に過ごしている。又ホーム内でもこれまでの生活歴から得意なこと、好きな事が日常的に感じられるよう支援しており、詩吟などの趣味がある方には、ケアハウス内に月2回来る詩吟教室への参加や、縫い物、料理、お菓子作り、など入居者一人一人の活躍の場を考慮しながら、支援している。